

令和元年度 学校自己評価

中津市立三郷小学校

1 学校の教育目標

自ら学び 社会で勝負できる知識と体力を身につけ 夢と希望を語れる 三郷っ子

###

評定判断基準	
A	…達成率90～100%
B	…達成率70～ 89%
C	…達成率60～ 69%
D	…達成率60%未満

2 重点目標・達成指標、重点的取組等

質目・指能す力資	重点目標	達成指標		重点的取組	取組指標	評価	成果と課題、及び次学期（次年度）に向けての取組
自ら意志を強く持ち行動する力	意志を基本もつて伝え合う	○単元テストで観点別（思考、判断、表現）に8割取れた児童の割合を80%以上にする。（○層児の個人内の成果を10%上げる。） ○「授業中、理由をつけて3回以上、ペア・グループまたは全体で発言できた。」という項目について、児童アンケートで、「よくできた」「概ねできた」と答えた割合を80%以上にする。	学校	○算数の授業の中で「既習事項とのちがひ」「児童の困り」を明らかにした授業の設定（授業改善）	○算数科において、既習事項を明記し、既習事項との違いから、子どもたちの困りを出させ、課題にする。	A	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちの困りを課題につなげることができた。 6月の算数 単元別テストの観点別結果は、考え方80点以上80%に達したのは3クラス、技能では5クラス、知識・理解でも5クラスであった。 C層児童の検証を行った結果、C層に値する児童は、内容、観点別等いろいろな場合で変わることが分かった。従って、前回の達成指標の「C層児童については、7割を80%にする」という表現は、評価が難しかったので、「C層児童の個人内の成果を10%上げる。」という表現に改める。 スキルタイム、放課後補充学習（特に考え方の分野）について、各学級で実態に応じて見直しを行う。
			学校	○根拠を入れた自分の考えをまとめ、ペア・グループで交流する時間の設定	○1日1回は、自分の考えと友だちの考えを比較検討する場として、ペア・グループ学習に取り組む。	B	<ul style="list-style-type: none"> ペア・グループ学習では、互いに意見交流ができています。 児童アンケートで「できた」と答えた児童が56%、「概ねできた」と答えた児童が31%であり、80%以上であるものの、前回より「概ねできた」子の割合が下がっている。 ペア・グループ学習については、自分の考えと友だちの考えを比較検討する場に絞って行う。 ペア・グループ学習について、今後は、自分と友だちの考えの比較検討の場としての取り組みを進めることで、より交流が行えるようにする。
			家庭	○家庭学習の習慣化とチェック宿題に読書タイム10分間を設定	○家庭学習チェックシートに感想を書く。 ○週末、連絡帳に読書記録と感想を書かせる。	C	<ul style="list-style-type: none"> 週末読書に取り組めたのが、66% 週末読書に取り組めていない学年も、週末以外の取り組みにたりして、取り組むことができた。
			地域	○生活科、総合的な学習の時間で、GT（すくすくプロジェクト、森林体験学習）を活用した場面設定	○生活科、総合的な学習の時間における計画をたてる。 ○GTとの打ち合わせ	A	<ul style="list-style-type: none"> GTとの打ち合わせを十分に行い、各学年で活動をする事ができた。
	自相手を思いやり、判断・行動する子どもの育成	○三郷っ子スピリッツチェックカードで、「三郷っ子スピリッツ（1あいさつ 2返事 3言葉づかい 4整理整頓 5時間）◎○」と回答する児童の割合を80%以上にする。 ○三郷っ子スピリッツがんばりカード（児童・保護者）で、「三郷っ子スピリッツ（1あいさつ 2返事 3言葉づかい 4整理整頓 5時間）◎○」と回答する割合を90%以上にする。	学校	○相手を思いやる子どもを育成する	○全校で、三郷っ子スピリッツ「1あいさつ・2返事・3言葉づかい・4整理整頓・5時間」に取り組む、毎週末にチェックする。	A	<ul style="list-style-type: none"> 毎週末、三郷っ子スピリッツチェックカードで5項目のふり返しを行った。 6月三郷っ子スピリッツがんばりカード（返事）に取り組んだ。 ◎○と回答した児童92%（平均）。1あいさつ95% 2返事93% 3言葉づかい87% 4整理整頓92% 5時間91% よくできた◎と回答する児童の割合だけを見ると、50%台の項目がある（返事・言葉づかい・時間）。○→◎になっていくよう、生徒指導担当が全校に呼びかける。各学級で実態に合わせて取組を継続する。 スピリッツチェックカードは毎月実施。毎週末のチェック時に各学級で実態・課題等を出し合う。 夏休みに向けて、スピリッツ「5時間」に関して気をつけることを運営委員会が児童朝会で発表予定。夏休み中に家庭で掲示できるカードも作成予定。 9月のがんばりカードは、夏休みからの継続&運動会と関連させて、スピリッツ「5時間」で取り組む予定。
			学校	○自分の思いや感想を自分の言葉で伝える子どもを育成する。	○児童朝会や遊び集会、掃除、学級などで感想を伝える場を設ける。（月1回以上は全員発表する。）	B	<ul style="list-style-type: none"> 達成率85% 感想発表の場は定期的に設けることができた。 各集会の後も感想発表の場を設けた。 全校の場に限らず、学級でも逐一感想発表の場を継続して設けていく。
			家庭	○家庭内での三郷っ子スピリッツを励行する。	OPTA保体校外指導部を中心に三郷っ子運動に年1回は参加する。 ○年6回「スピリッツがんばりカード」の取組に参加し、感想を書く。	A	<ul style="list-style-type: none"> 5.6月で、保体校外指導部の保護者12人（16人中）があいさつ運動に参加した。 スピリッツがんばりカード（返事）の取組に参加した。 スピリッツがんばりカード→家で返事ができた◎○と回答した児童93%。家で返事ができた◎○と回答した保護者97%。 スピリッツがんばりカードに感想を記入後提出した保護者96%。
			地域	○あいさつ・声かけ運動を推進する。	○登下校時に子どもを見かけたら、あいさつや言葉かけをする。 ○地域での子どもたちの様子について、学校に伝える。（学期に1回アンケート）	A	<ul style="list-style-type: none"> 登下校時に見守りを実施。 6月中旬にアンケートを実施した。地域の方も、あいさつプラス1を意識した声かけをしてくださっている。
	体力向上の必要性を感じながら育ち成る	○児童アンケートで、「自分の体力向上のために三郷チャレンジに取り組めた」と回答する児童の割合を90%以上にする。 ○3学期末のソフトボール投げの計測で、全学級の平均が全国平均を上回る。 ○自己評価アンケート（児童・保護者）が「健康の必要性を学びながら体力向上を目指すことができた」と回答した割合を80%以上にする。	学校	○体力テストの結果をもとに、学期ごとに指定した三郷チャレンジ（強化プログラム）を実施し、成長を実感させる。	○学期ごとに1種目の強化プログラムをGM・F（グッドモーニング・フィットネス）や体育の時間に実施し、どの活動で成果があったか自分たちで気づかせる。	A	<ul style="list-style-type: none"> 高学年が早めに集合してお世話ができています。 雨の日もGM・F（グッドモーニング・フィットネス）を体育館で取り組めるようになった。 雨の日でも昼休みに体育館で元気に体を動かす子が多く、体を動かす楽しさを味わえた。
			学校	○GM・F（グッドモーニング・フィットネス）でバトンスローを毎日行い、計画的に投げる練習に取り組む。	○ソフトボール投げの成果を学期に1回ドッジボール大会で発揮することで、子どもの取組の意欲づけとする。	A	<ul style="list-style-type: none"> 1学期末にドッジボール大会を実施することができた。 2学期は「スカットボーイ」という教具で投げる練習を行う。
			家庭	○家庭では、子どもの健康や体力向上のために生活習慣を見直すことを実践する。	○生活チェック週間は、特に「メディアコントロール」、「親子で体カトレーニング」に協力する。	A	<ul style="list-style-type: none"> メディアコントロールは意識できるようになったが、数名はまだ改善できていない。 メディアのコントロールはできて、習い事などで睡眠を確保できない子もいる。
			地域	○体力強化での学習支援 ○体育的行事への応援	○体育環境の支援に参加・参画する。（運動場の整備、器具や道具の整備など）	B	<ul style="list-style-type: none"> 一部、親子体カトレーニングに取り組めていない。

度）学期を終えての成果や課題、及び次学期（次年度）に向けての具体的取組について記入する。